

出張報告届

令和8年 2 月 9 日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会

代表者氏名 白石 透

出張者氏名 白石 透.....

.....  
.....  
.....  
.....



下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	京都JAビル（京都市南区）
期間	令和8年 2月 6日から 2月 6日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	議員力向上セミナー ～財政を理解し、質問力を向上するために～ 「財政を理解して、より説得力のある政策提案につなげよう！」 「戦略的一般質問のススメ」

## 議員力向上セミナー

～財政を理解し、質問力を向上するために～

日程；令和8年2月6日（金）

場所；京都 JA ビル

講師；稲村 和美 （前尼崎市長）

講師稲村さんは、前尼崎市長であり、今も引き継がれている NATS（西宮・尼崎・豊中・吹田）の県境を越えた規模の似た4市で吹田市長とも交流がある方で今日のセミナー内容も共通する事案を市長サイドからの目線で語られ大変参考になる場面が多かった。

尼崎市の規模は人口45万人、面積50.70km<sup>2</sup>と、その人口密度は兵庫県内1位、全国22位とたいへん高い所であり、また海に面していることから、工場が大変多く、高度成長期に阪神工業地帯の中核を担い、大気汚染、地盤沈下といった環境公害や、それに伴う急激な人口の増加と減少など吹田市とはまたぜんぜん別の課題があったことの解説、特に地盤沈下や昭和45年の人口55万人が45.6万人に減った現実、などから、危機的な財政状況に追い詰められたことなどから行財政

改革の 20 年の苦労などの解説があった。

特に地盤沈下に対しての財政出動には苦労があったとの事。

当たり前のことだが人口増加時代は負担は減るが、少なくなれば負担は増えていくところをいかにしていくかが最大の壁になり、「攻守バランス型」の行財政運営に徹し「課題先進都市」ならば「課題解決先進都市」を目指そう！を掲げイメージ向上をはかったとのことであつた。「どんな事ならパブリックか、公益なのか」を熟慮し個人の意向で動かすわけではないことに注力しパブリックの建て付けに民間はどう関わってくれるかを考えていたとの事。

必要性・重要性の合意の形成、何をあきらめ、何を決めるのかが政治、あらゆる要求には予算が追いつかない、「人件費をカットして、給与を 1 割カットしても仕事量が 2 割減ったら意味がない「モチベーション」、また職員の人材育成もとても大切なことであると言われていた。

また政策にかかる予算を具体的に考えることが大事で政策実現＝費用の支払い完了ではないこと、単発の費用か、継続の費用かそれには費用対効果があるのか、などの確認、またぜひチェックして欲しいところは、公債費には事業費が入っているのでそれが何のための事業

費かその事業は本当に今時点でも必要かの点検を是非して欲しいと言われていたところは印象的だった。建造物は簡単に見直し等は出来ないが、よりパフォーマンスの優れた使用方法もあるかもしれないし、運営については本当に必要な事業かどうかを見直す価値のあるものもあるかもしれない。吹田市の財政についても人口増による税収もあると思うが、過去の議会等から指摘を受けた事案もあり、常にその時代にあった事業費は「今、本当に民意なのかを確かめる」必要性を感じた。